



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月29日

上場会社名 株式会社牧野フライス製作所 上場取引所 東
 コード番号 6135 URL <https://www.makino.co.jp/>
 代表者(役職名) 取締役社長 (氏名) 宮崎 正太郎
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役管理本部長(氏名) 永野 敏之 (TEL) 046-284-1439
 四半期報告書提出予定日 2022年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	46,481	25.8	1,642	78.4	2,908	78.8	2,387	91.4
2022年3月期第1四半期	36,939	56.9	920	—	1,626	—	1,247	—

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 8,155百万円(428.8%) 2022年3月期第1四半期 1,542百万円(29.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	99.77	—
2022年3月期第1四半期	51.58	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	341,473	185,314	54.1
2022年3月期	325,579	178,778	54.6

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 184,831百万円 2022年3月期 177,891百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	10.00	—	50.00	60.00
2023年3月期	—	—	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	70.00	—	80.00	150.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	104,300	38.4	5,900	107.8	6,550	63.3	5,200	55.1	217.28
通期	221,500	18.7	15,500	37.2	16,300	14.2	13,400	11.3	559.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	24,893,841株	2022年3月期	24,893,841株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	961,406株	2022年3月期	961,278株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	23,932,521株	2022年3月期1Q	24,190,097株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
受注及び販売の状況	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高464億81百万円(前年同期比25.8%増)、営業利益16億42百万円(前年同期比78.4%増)、経常利益29億8百万円(前年同期比78.8%増)、純利益23億87百万円(前年同期比91.4%増)となりました。

第1四半期の連結受注は735億47百万円(前年同期比41.0%増)となり、過去最高を更新しました。為替レートが円安で推移したことで換算額が増加しました。好調が続いているアメリカと中国において、受注が集中する状況が継続しました。

第1四半期(2022年4月～6月)における報告セグメント別の受注状況(現地通貨ベース)は以下のとおりです。(当社報告セグメントはグループの販売体制をもとに構成しています。詳細については9ページを参照ください)

セグメントⅠ(「個別」および国内連結子会社)

牧野フライス製作所の国内受注は、前年同期を上回りました。自動車や、半導体製造装置の部品加工向けを中心に様々な産業で増加しました。

第2四半期は受注水準の維持に努めます。

レーザ加工機の受注が徐々に増加しています。2022年7月より微小形状のレーザ加工を高品質にできるLUMINIZER LF400を発売し、お客様への提案の幅を広げております。

セグメントⅡ(MAKINO ASIA PTE LTD)

アジアの受注は、前年同期を上回りました。

中国は、自動車の部品加工向けが、大口のスポット受注のあった前年同期に対しても上回る結果となりました。新エネルギー車向けの割合が増加傾向にあります。電気電子部品の金型向けも好調を維持しました。

第2四半期は、第1四半期と同様に高水準の受注が続くと見えています。

インドは、まとまった受注のあった前年同期を下回りました。前年同期の大型受注を除くと、自動車向けの受注は堅調です。

第2四半期も同様の状況が続くと見えています。

アセアンは、前年同期並みで推移しました。半導体製造装置の部品加工向けのほか、様々な受注がありました。

第2四半期も同様の状況が続くと見えています。

セグメントⅢ(MAKINO INC.)

前年同期を上回りました。

アメリカではインフレや利上げによる景気後退の懸念がある中でも好調が続きました。

ピックアップトラックや物流のトラックなどの自動車、半導体製造装置、医療、産業機械、航空機など、様々な産業向けが好調です。航空機向けは小型機向けを中心として受注がありました。

第2四半期も景気減速懸念がある中で、受注水準を維持できるよう努めます。

セグメントⅣ(MAKINO Europe GmbH)

前年同期を上回りました。半導体製造装置メーカーからまとまった受注を獲得したことが主な要因です。航空機向けも増加しました。

第2四半期は、第1四半期にあった大型受注を除けば、同様の状況が続くと見えています。

高水準の受注が続いていることで、受注残が増加しています。計画以上の売上ができるよう努めます。

2022年度第1四半期より、中国の武漢に建設した工場の稼働を開始しました。生産活動の拡大に取り組みます。

中国の昆山の工場においては、コロナウイルスによるロックダウンの影響を受けた第1四半期からの挽回を図ります。

国内では、タイムリーな部品供給はもとより、製造の工程を細分化し、熟練工をはじめとした人員を適材適所に配置することで、組立工程の生産性を上げる取り組みをしています。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ158億93百万円増加し、3,414億73百万円となりました。主な増減としては、棚卸資産131億93百万円の増加、現金及び預金124億36百万円の増加、売上債権92億93百万円の減少、リース資産（純額）12億55百万円の増加及び投資有価証券12億15百万円の減少などが挙げられます。

負債につきましては、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金80億89百万円の増加、仕入債務43億45百万円の減少及びリース債務11億84百万円の増加などにより、前連結会計年度末に比べ93億57百万円増加し、1,561億58百万円となりました。

また、純資産につきましては、為替換算調整勘定67億81百万円の増加、利益剰余金11億91百万円の増加及びその他有価証券評価差額金8億62百万円の減少などにより、前連結会計年度末に比べ65億36百万円増加し、1,853億14百万円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

為替レートの見直しをしたことにより、2022年4月28日に公表した業績予想を修正しました。具体的内容は本日(2022年7月29日)公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」を参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	73,100	85,536
受取手形、売掛金及び契約資産	48,432	39,138
有価証券	3,542	3,436
商品及び製品	22,335	27,688
仕掛品	20,342	23,145
原材料及び貯蔵品	35,831	40,869
その他	9,999	6,969
貸倒引当金	△1,326	△1,273
流動資産合計	212,257	225,510
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	32,697	33,336
機械装置及び運搬具（純額）	8,947	9,311
工具、器具及び備品（純額）	4,738	5,105
土地	18,940	19,155
リース資産（純額）	4,289	5,545
建設仮勘定	5,701	5,971
有形固定資産合計	75,315	78,425
無形固定資産		
その他	3,611	3,529
無形固定資産合計	3,611	3,529
投資その他の資産		
投資有価証券	25,827	24,611
長期貸付金	704	693
繰延税金資産	3,378	3,787
退職給付に係る資産	729	777
その他	3,939	4,318
貸倒引当金	△183	△181
投資その他の資産合計	34,395	34,008
固定資産合計	113,322	115,963
資産合計	325,579	341,473

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	25,313	19,120
電子記録債務	18,304	20,152
1年内返済予定の長期借入金	4,650	3,650
リース債務	591	909
未払法人税等	2,544	1,622
その他	38,492	43,691
流動負債合計	89,895	89,146
固定負債		
社債	20,000	20,000
長期借入金	23,800	32,890
リース債務	2,510	3,376
繰延税金負債	6,127	5,903
役員退職慰労引当金	129	132
退職給付に係る負債	2,304	2,382
その他	2,033	2,326
固定負債合計	56,905	67,012
負債合計	146,801	156,158
純資産の部		
株主資本		
資本金	21,142	21,142
資本剰余金	37,074	37,055
利益剰余金	101,513	102,705
自己株式	△4,014	△4,014
株主資本合計	155,716	156,889
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,174	13,312
為替換算調整勘定	8,369	15,150
退職給付に係る調整累計額	△369	△521
その他の包括利益累計額合計	22,174	27,942
非支配株主持分	886	483
純資産合計	178,778	185,314
負債純資産合計	325,579	341,473

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
売上高	36,939	46,481
売上原価	27,540	33,655
売上総利益	9,399	12,825
販売費及び一般管理費	8,479	11,183
営業利益	920	1,642
営業外収益		
受取利息及び配当金	324	348
為替差益	27	813
助成金収入	215	35
その他	211	202
営業外収益合計	778	1,399
営業外費用		
支払利息	71	74
その他	1	58
営業外費用合計	72	132
経常利益	1,626	2,908
特別利益		
固定資産売却益	15	3
投資有価証券売却益	6	-
雇用調整助成金	5	-
特別利益合計	27	3
特別損失		
固定資産除却損	24	0
特別損失合計	24	0
税金等調整前四半期純利益	1,629	2,911
法人税等	381	521
四半期純利益	1,248	2,389
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,247	2,387

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,248	2,389
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	247	△862
為替換算調整勘定	67	6,781
退職給付に係る調整額	△20	△152
その他の包括利益合計	294	5,766
四半期包括利益	1,542	8,155
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,541	8,155
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

「リース」(ASU第2016-2号)

一部の在外連結子会社においては、当第1四半期連結会計期間より、ASU第2016-2号「リース」を適用しております。これによりリースの借手は、原則としてすべてのリースを四半期連結貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。また当該会計基準の適用については、経過的な取扱いに従って、当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

「時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用」

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

なお、当第1四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの主な事業は工作機械の製造販売であります。製造は日本、アジアで行っており、販売は海外の重要拠点に子会社を展開して、グローバルな販売活動を行っております。従いまして、当社グループは下記Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの販売体制を基礎とした各社の所在地別のセグメントから構成されております。

報告セグメントⅠ. は牧野フライス製作所が担当するセグメントであり、主たる地域は日本、韓国、中国、大洋州、ロシア、ノルウェイ、イギリス及びセグメントⅡ、Ⅲ、Ⅳに含まれないすべての地域です。さらに、国内関係子会社を含んでおります。

報告セグメントⅡ. はMAKINO ASIA PTE LTD(シンガポール)が担当するセグメントであり、主たる地域は中国、ASEAN諸国、インドです。

報告セグメントⅢ. は、MAKINO INC. (アメリカ)が担当しているセグメントで、南北アメリカのすべての国です。

報告セグメントⅣ. は、MAKINO Europe GmbH (ドイツ)が担当するセグメントであり、ヨーロッパ大陸(ノルウェイを除く)のすべての国です。

Ⅰ 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	Ⅰ (百万円)	Ⅱ (百万円)	Ⅲ (百万円)	Ⅳ (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	9,357	16,428	8,817	2,336	36,939
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	12,779	1,413	122	11	14,328
計	22,137	17,841	8,940	2,348	51,268
セグメント利益 又は損失(△)	△226	1,360	131	△389	876

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

利益	金額(百万円)
報告セグメント計	876
未実現利益の消去他	43
四半期連結損益計算書の営業利益	920

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント				
	Ⅰ (百万円)	Ⅱ (百万円)	Ⅲ (百万円)	Ⅳ (百万円)	計 (百万円)
売上高					
1. 外部顧客に対する 売上高	10,823	20,278	12,745	2,633	46,481
2. セグメント間の内部 売上高又は振替高	18,541	3,403	117	7	22,069
計	29,365	23,682	12,863	2,640	68,551
セグメント利益 又は損失(△)	△169	1,649	704	△256	1,928

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

利益	金額 (百万円)
報告セグメント計	1,928
未実現利益の消去他	△286
四半期連結損益計算書の営業利益	1,642

3. その他

受注及び販売の状況

1. 受注の状況

受注高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 自 2022年 4月 1日 至 2022年 6月 30日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	15,609	21.2	15.8
II	28,011	38.1	31.2
III	22,286	30.3	70.9
IV	7,640	10.4	77.7
合計	73,547	100.0	41.0

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。

受注残高

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第1四半期連結会計期間末 2022年 6月 30日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	32,037	27.8	63.0
II	27,577	24.0	68.1
III	39,798	34.6	133.4
IV	15,727	13.6	101.0
合計	115,141	100.0	88.9

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。

2. 販売の状況

販売実績

(百万円未満切捨て)

セグメントの名称	当第1四半期連結累計期間 自 2022年 4月 1日 至 2022年 6月 30日		前年同四半期比
	金額	比率 (%)	比率 (%)
I	10,823	23.3	15.7
II	20,278	43.6	23.4
III	12,745	27.4	44.6
IV	2,633	5.7	12.7
合計	46,481	100.0	25.8

(注) 上記の金額には消費税は含まれておりません。